

平成 28 年度春の陶器市による 経済波及効果は 16 億 4,761 万円

■ 概要

株式会社ネオクラシックは、2016年4月29日（金）～5月8日（日）の10日間、益子町で開催された春の陶器市がもたらす経済波及効果を試算した。

その結果、春の陶器市の開催による当該地域経済（栃木県内）に及ぼす経済波及効果は16億4,761万円で、うち直接効果が10億8,580万円、間接効果（第1次+第2次）は5億6,181万円になることが分かった。

■ 試算結果

（単位：円）

総合効果	直接効果	間接効果	
		第1次間接効果	第2次間接効果
1,647,609,569	1,085,795,824	317,474,733	244,339,013

■ 試算方法（前提条件）

- 春の陶器市期間中の来場者数を413,900人（主催者発表）とする。
- 最終需要額は、春の陶器市を実施するにあたり支出された春の陶器市実行委員会にかかる運営費（主催者発表）および観光客の陶器市にかかる支出金額（後述）をもとに算出する。
- 観光客の春の陶器市にかかる支出金額は、来場者にアンケート調査を実施し、それらをもとに土産代、陶器市以外での買物代、飲食費、交通費、宿泊費を推計する。具体的な算出方法は「最終需要額の推計」で説明する。
- 経済波及効果の算出にあたっては、「2011年度版 栃木県産業連関表(37部門) および雇用表¹」を利用する。

¹栃木県産業連関表-栃木県公式ホームページ：
<http://www.pref.tochigi.lg.jp/c04/pref/toukei/toukei/io.html>

■ アンケート調査の実施概要

実施主体：益子町商工会

実施場所：益子春の陶器市

実施対象：益子春の陶器市の来場者

実施日：平成28年4月29日（金）～5月8日（日）

実施方法：来場者に負担が掛からないよう調査員がアンケート内容を読み上げ、アンケート用紙にチェックする方式で実施

■ アンケート回収状況および有効回答票数

アンケート回収数：508票

有効回答票数：508票

■ 支出科目における産業格付け

秋の陶器市の支出科目における産業格付けは、総務省統計局「2011 年度版 産業連関表 第8章部門分類表²」と先行事例³を参考にして行った。

また支出科目において主催者事業費の「通信運搬費」は経費内訳から「運輸・郵便」と「情報通信」を9対1の割合で、観光客の消費支出の「土産代」は消費状況により「商業」と「窯業・土石製品」を2対8の割合で案分した。

主催者事業費

実行委員会決算書

支出科目	部門分類(37分類)
賃金	対事業所サービス
報酬費	対事業所サービス
消耗品費	事務用品
食料費	飲食料品
印刷製本費	その他の製造工業製品
通信運搬費	運輸・郵便
	情報通信
手数料	対事業所サービス
広告費	対事業所サービス
委託料	対事業所サービス
使用料および賃借料	対事業所サービス
事務費	対事業所サービス
予備費	分類不明

² 総務省統計局-平成23年(2011年)産業連関表(一総合解説編一):
http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/data/io/011index.htm

³ 小長谷一之・前川知史(2012) pp.238-245

観光協会決算書

支出科目	部門分類(37分類)
賃金	対事業所サービス
消耗品費	事務用品
委託料	対事業所サービス

巡回バス決算書

支出科目	部門分類(37分類)
委託料	対事業所サービス
消耗品費	事務用品
使用料および賃借料	対事業所サービス

直行バス決算書

支出科目	部門分類(37分類)
委託料	対事業所サービス
手数料	金融・保険

観光客の消費支出

支出科目	部門分類(37分類)
交通費	石油・石炭製品
	運輸・郵便
宿泊費	対個人サービス
飲食費	対個人サービス
土産代	商業
	窯業・土石製品

■ 最終需要額の推計

アンケート調査での観光客数は、1,314人であった。その内、電車・バスを利用して来た観光客数は81人で、自動車・オートバイでの観光客数は1,183人、残りは徒歩・自転車と無回答の観光客である。また宿泊をされた観光客数は、142人であった。

これらの人数をもとに秋の陶器市に来場された全ての観光客の支出金額である最終需要額を推計していく。

最終需要額は、観光客が秋の陶器市に来られたことにより発生した支出金額であるため、次の4つの費用を合算したものを観光客の最終需要額とする。4つの費用項目とは、「交通費」「飲食費」「土産代・買物代」「宿泊費」である。また交通費は、「電車・バス」で来られる方と「自動車・オートバイ」で来られる方がいるため、これらの費用は別々で推計する。

● 交通費

「電車・バス」を費用項目とした最終需要額は、まず電車・バスを利用して来た観光客の消費総額は、184,750円であった。電車・バスを利用して来た観光客数は、81人であるため一人あたりの消費額は約2,281円となる。

したがって電車・バスでの最終需要額は、
 $81人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約2,281円 = 58,194,844円$ となる。

「自動車・オートバイ」を費用項目とした最終需要額は、自動車・オートバイで来られた観光客の消費総額は、1,245,000円。自動車・オートバイでの観光客数は、1,183人であるため一人あたりの消費額は約1,052円となる。

したがって自動車・オートバイでの最終需要額は、
 $1,183人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約1,052円 = 392,165,525円$ となる。

● 飲食費

「飲食費」を費用項目とした最終需要額は、観光客が陶器市に来られたことによる一切の飲食費の消費総額は1,364,500円。観光客数は、1,314人であるが、飲食費の支出金額の設問で無回答と答えた対象者がいたため、飲食費における観光客数は、1,292人である。よって一人あたりの消費額は約1,056円となる。

したがって飲食費による最終需要額は、
 $1,292人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約1,056円 = 429,807,116円$ となる。

- 土産代・買物代

「土産代・買物代」を費用項目とした最終需要額は、観光客が陶器市に来られたことによる一切の土産代・買物代の消費総額は3,516,050円。観光客数は、1,314人であるが、飲食費同様に土産代・買物代の支出金額の設問で無回答と答えた対象者がいたため、土産代・買物代における観光客数は、1,303人である。よって一人あたりの消費額は約2,698円となる。

したがって飲食費による最終需要額は、
 $1,303人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約2,698円 = 1,107,528,992円$ となる。

- 宿泊費

「宿泊費」を費用項目とした最終需要額は、観光客が宿泊に要した費用の消費総額は、1,184,000円。宿泊をされた観光客数は、142人であるため一人あたりの消費額は約8,338円となる。

したがって宿泊費による最終需要額は、
 $142人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約8,338円 = 372,950,989円$ となる。

費用項目	算出方法
電車・バス	電車・バスを利用して来た観光客の消費総額は、184,750円。観光客数は81人。一人あたりの消費額は約2,281円。 電車・バスでの最終需要額は $81人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約2,281円 = 58,194,844円$
自動車・オートバイ	自動車・オートバイによる観光客の消費総額は、1,245,000円。観光客数は、1,183人。一人あたりの消費額は約1,052円。自動車・オートバイでの最終需要額は $1,183人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約1,052円 = 392,165,525円$
飲食費	飲食費の消費総額は、1,364,500円。観光客数は、1,292人。一人あたりの消費額は約1,056円。飲食費による最終需要額は $1,292人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約1,056円 = 429,807,116円$
土産代・買物代	土産代・買物代の消費総額は、3,516,050円であった。観光客数は、1,303人。一人あたりの消費額は約2,698円。土産代・買物代による最終需要額は $1,303人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約2,698円 = 1,107,528,992円$
宿泊費	宿泊をした観光客の消費総額は、1,184,000円であった。宿泊された観光客数は、142人。一人あたりの消費額は約8,338円。したがって宿泊費による最終需要額は $142人 \div 1,314人 \times 413,900人 \times 約8,338円 = 372,950,989円$

これら費用項目ごとの最終需要増加額と秋の陶器市実行委員会にかかる運営費用を「2011年度版 栃木県産業連関表（37部門）および雇用表」の支出科目に代入すると経済波及効果が導出される。

■ まとめ

益子焼は、首都圏等から年間約 190 万人の陶芸愛好家や観光客が益子焼を求めて来町され、益子町における基幹的な観光資源となっている。

その中で本調査を実施した春の陶器市には、毎年おおよそ約 40 万人の観光客が来町され、秋の陶器市と合わせた観光客数は年間益子町に訪れる訪問者の 3 分の 1 を占める一大イベントとなっている。

このような一大イベントの一つでもある秋春の陶器市の経済効果は、直接効果が 10 億 8,580 万円、間接効果（第 1 次+第 2 次）は 5 億 6,181 万円となり、それらを合わせた経済波及効果は、16 億 4,761 万円となることが確認できた。

最後に春の陶器市における経済的な意義として、イベントの主催者が支出する主催者事業費を「投資」と考え、経済効果をそれによる「効果」とした場合、主催者事業費の合計金額は 5,871,220 円で、経済効果は 1,647,609,569 円である。

したがって最終的な「投資対効果」は、主催者事業費の約 281 倍にも及ぶことが今回の試算で分かった。このように秋の陶器市における当該地域への経済的な意義は非常に大きいと考えられる。⁴

以上

⁴ 早川 (2011) p. 2

参考文献

小長谷一之、前川知史 (2012) 『経済効果入門 地域活性化・企画立案・政策評価のツール』日本評論社

早川敬一 (2011) 『イベントの経済波及効果』社団法人 日本イベント産業振興協会

参考ウェブサイト

栃木県産業連関表-栃木県公式ホームページ:

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/c04/pref/toukei/toukei/io.html> (2017/3/9 アクセス)

総務省統計局-平成 23 年 (2011 年) 産業連関表 (一総合解説編一)

http://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/data/io/011index.htm(2017/3/9 アクセス)

【作成/監修】

〒324-0054

栃木県大田原市若松町 505-1 柴田若松コーポ 103 号

株式会社ネオクラシック 中小企業診断士 柴田 幸紀